



【 「聴く」の指導（質） 】

○ 「ふるさと井波」No.17（5月30日）で、『聴く』の指導について書きました。あのときは、「相手に体を向けて聴く」などの「形」の指導について書きました。今、「聴き合い学習」をするときは、**机の隊型を「コの字」型**にして、互いに顔が見えるような隊型にしようと共通理解しているところです。



- 「**質**」の指導については、5月の連休明けから、朝の時間に「**お話タイム**」という時間を設けています。まず、一人の子供が話をします。そのときに、「嬉しかったです。」「悲しかったです。」などの「**気持ち**」を述べます。場合によっては、「**気持ち**」を表す顔マークを見せながら話します。これは、「**気持ち**」という「**結論**」を先に述べるという意図です。
- 次に、その「**気持ち**」の理由を話します。例えば、「ぼくは、昨日、嬉しい気持ちになりました。理由は、テストで100点を取ったからです。」というように話します。そして、詳しく話します。その後は、**聴いている子供が、質問したり、自分の思いを述べたり**します。
- この聴き合いの目的の一つは、「**相手の言いたいことを分かってあげる**」ことです。同じ学級の仲間として、「**友達が何を言いたいのか。**」「**なぜ、友達はこのような話をするのか。**」を聴いて分かってあげることです。人間関係や学級経営の基本です。
- また、聴き合いの目的の二つ目には、**仲間の考えや取組を契機に、自分の考えや取組を見直す**ことです。何気なく過ごしたり思ったりしていたことが、仲間の話を契機に、自分のことがはっきりと見えてきたり、新しい発見をして次に歩み出そうとしたりすることができます。**私たち大人も同じだ**と思います。私も、一人で考えたり取り組んだりするに、限界があります。そこは、教員仲間の考えや姿を聴いたり見たりすることで、自分を見つめ直し、自分がさらに発展します。
- 「お話タイム」の事例は、6月号の学校だよりの巻頭言で紹介します。そして、このお話タイムで鍛えられたことが、**日頃の授業や生活で生きる**よう、私たちは努めているところです。